

埼玉県学力・学習状況調査の概要及び ICT教育に関する現場の取組事例

一人一人の学力を確実に伸ばす

埼玉県学力学習状況調査



コバトン

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
教育指導幹 矢口 岳人

I 埼玉県学力・学習状況調査について

II ICT教育に関する現場の取組事例

I 埼玉県学力・学習状況調査について

調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

調査方法

平成27年度から令和4年度まではPBTによる実施

令和5年度はCBTによる全面実施に向けて、PBTと一部CBTによる実施

令和6年度からCBTによる実施

令和7年度の実施状況

実施期間	令和7年4月23日(水)～5月21日(水) 全62市町村がCBTで実施					
調査学校数・児童生徒数	県内の公立小・中学校等(さいたま市を除く)に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒					
	小学校	673校	136,264人	中学校	347校	127,636人
	義務教育学校	4校	689人	県立中学校	1校	233人

I 埼玉県学力・学習状況調査について

令和7年度の調査事項等

調査事項	<p>ア 児童生徒に対する調査</p> <p>① 教科に関する調査（出題数は各学年30～36題、出題形式は選択式・短答式・記述式）</p> <table border="0"><tr><td>小学校第4学年から第6学年まで</td><td>国語、算数</td></tr><tr><td>中学校第1学年</td><td>国語、数学</td></tr><tr><td>中学校第2学年及び第3学年</td><td>国語、数学、英語</td></tr></table> <p>② 質問調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項（質問数は学年により97～114項目）</p> <p>イ 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項</p>	小学校第4学年から第6学年まで	国語、算数	中学校第1学年	国語、数学	中学校第2学年及び第3学年	国語、数学、英語
小学校第4学年から第6学年まで	国語、算数						
中学校第1学年	国語、数学						
中学校第2学年及び第3学年	国語、数学、英語						
特長	<p>○学力の伸び（経年変化）などを継続して把握することのできる調査</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校第4学年から中学校第3学年までの同一児童生徒を継続して調査し、学力の伸びを把握・PISA（国際学力到達度調査）と同様の調査手法（IRT：項目反応理論）を採用 <p>○非認知能力・学習方略を測定することのできる調査</p>						

I 埼玉県学力・学習状況調査について

学力の伸びの継続把握を実現(教科に関する調査)

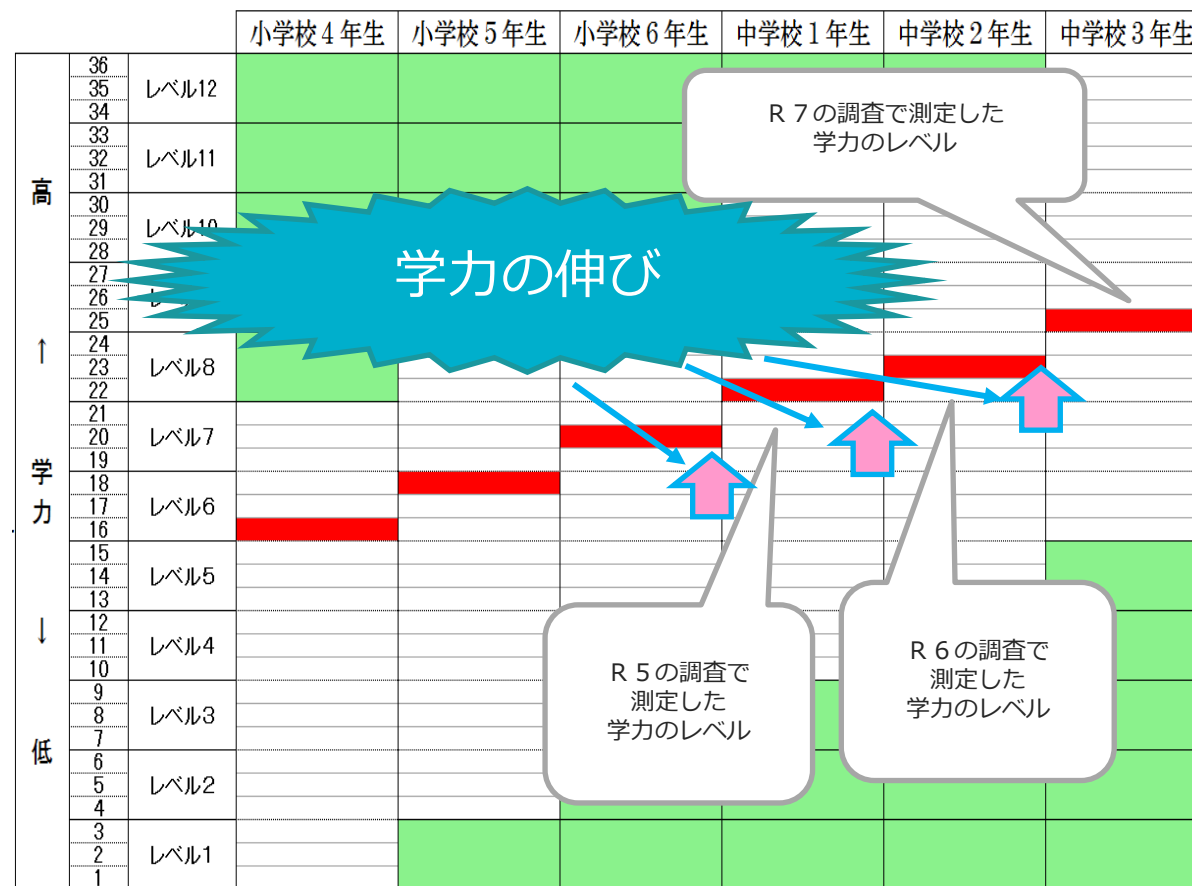
項目反応理論(IRT)

○正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定するテスト理論。

全ての問題に同一尺度で難易度を設定
→ 学力のレベルを測定

年度間の「学力のレベルの差」を
学力の伸びと捉える

学力のレベルを36段階 (12レベル×3層) で設定



I 埼玉県学力・学習状況調査について

非認知能力及び学習方略(児童生徒質問調査で測定)

非認知能力: 学力に代表される認知能力以外の様々な力(各学年2種類)

自己効力感	自分への自信、自己肯定力 など	全学年
自制心	イライラしない、心の平静を保てる など	一部の 学年
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など	
やりぬく力	粘り強い、根気がある など	
向社会性	相手の気持ちを考える、親切にする など	

学習方略: 子供が学びに向かうときの態度や学習の仕方(全学年5種類)

柔軟的方略	学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動 例) 勉強する順番を変えたり、分からないところを重点的に学習	全学年
プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	
作業方略	ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動	
認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動 例) 学習内容を自分の言葉で説明してみる	
努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
中3	やりぬく力	向社会性	自制心	勤勉性	向社会性	やりぬく力
中2	向社会性	自制心	勤勉性	向社会性	やりぬく力	自制心
中1	自制心	勤勉性	向社会性	やりぬく力	自制心	向社会性
小6	勤勉性	向社会性	やりぬく力	自制心	向社会性	自制心
小5	向社会性	やりぬく力	自制心	向社会性	自制心	勤勉性
小4	やりぬく力	自制心	向社会性	自制心	勤勉性	向社会性

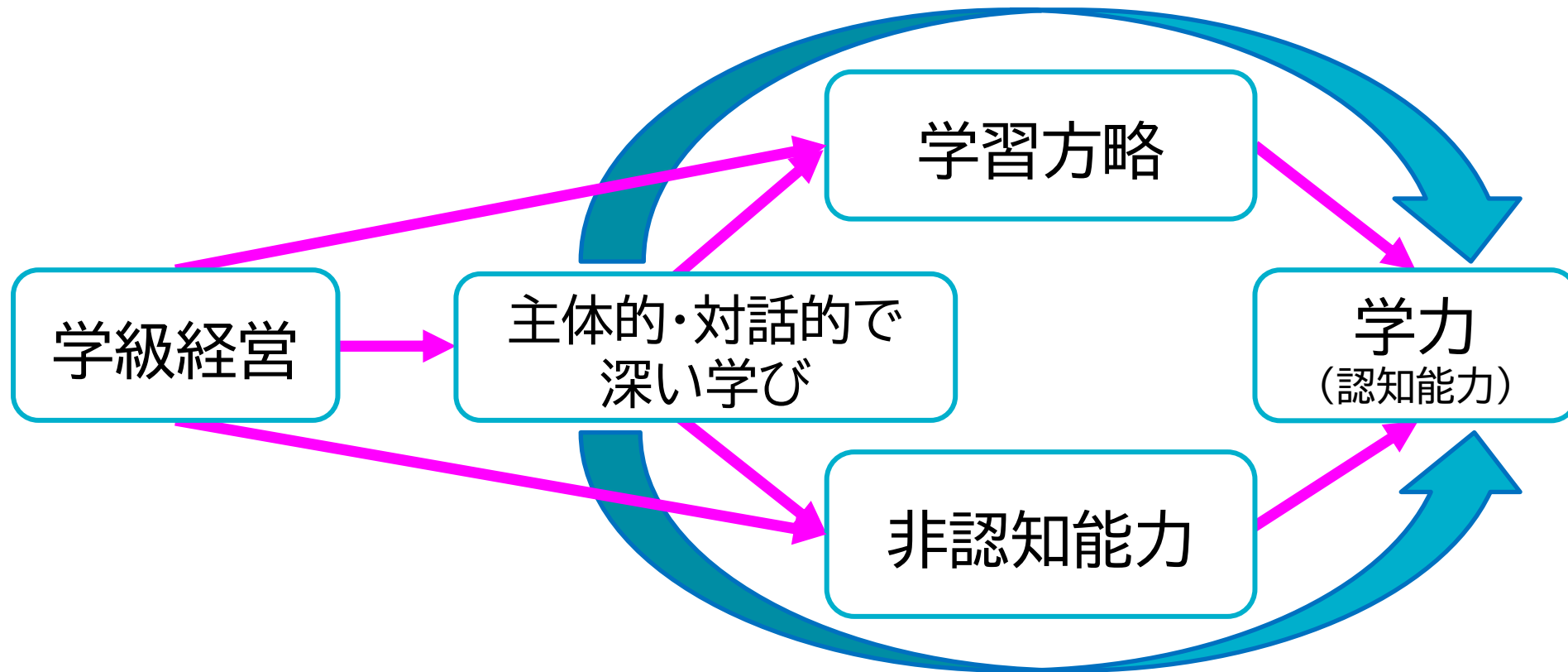
○非認知能力の自己効力感は、全学年共通で測定
その他の非認知能力は、学年ごと、6年間1つを
継続して測定

○学習方略は、全学年で測定

I 埼玉県学力・学習状況調査について

埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果①

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が児童生徒の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、児童生徒の学力向上につながる

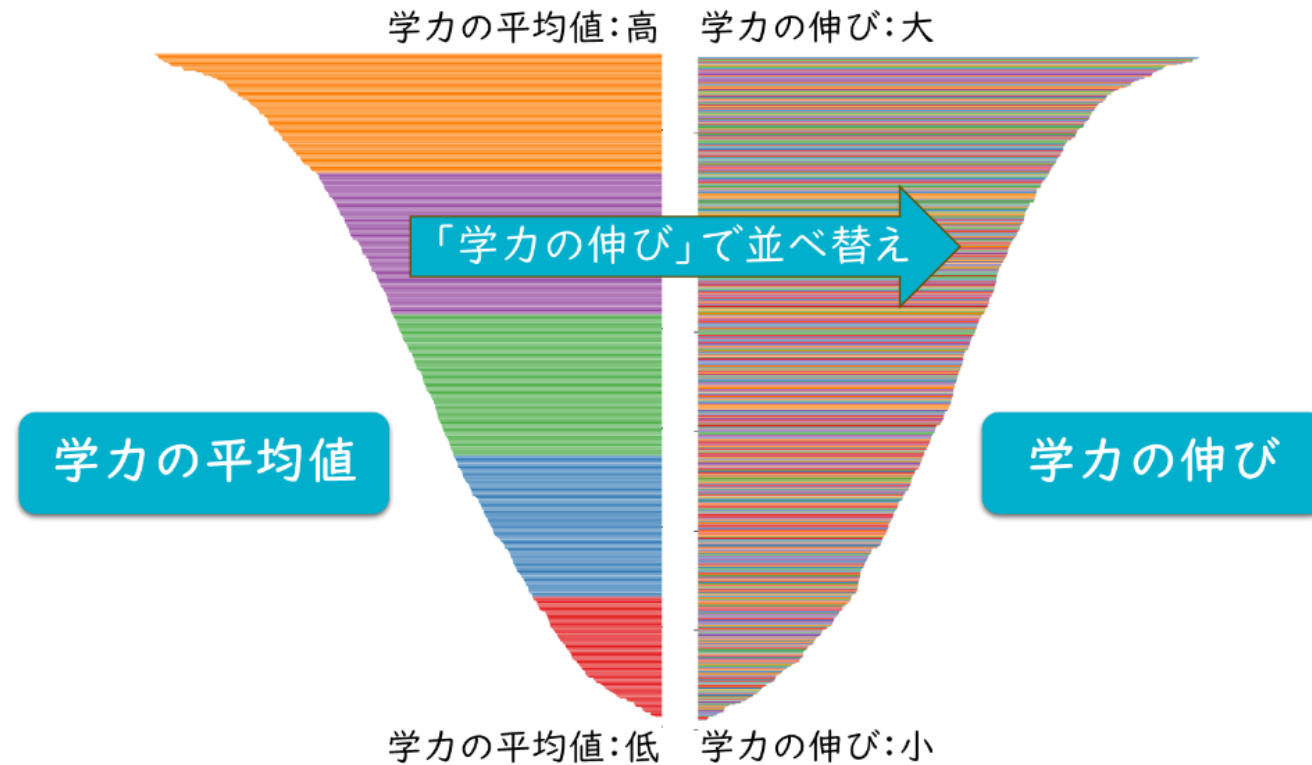


I 埼玉県学力・学習状況調査について

埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業における分析結果②

学力の平均値でみた状況と学力の伸びでみた状況は異なる(ばらつく)

学力が高い学校 ≠ 学力を伸ばしている学校 、 学力が低い学校 ≠ 学力を伸ばしていない学校



I 埼玉県学力・学習状況調査について

指導の工夫改善(県教育委員会での分析と活用)

(1) クロス集計の例

「主体的な学び」についてわかったこと

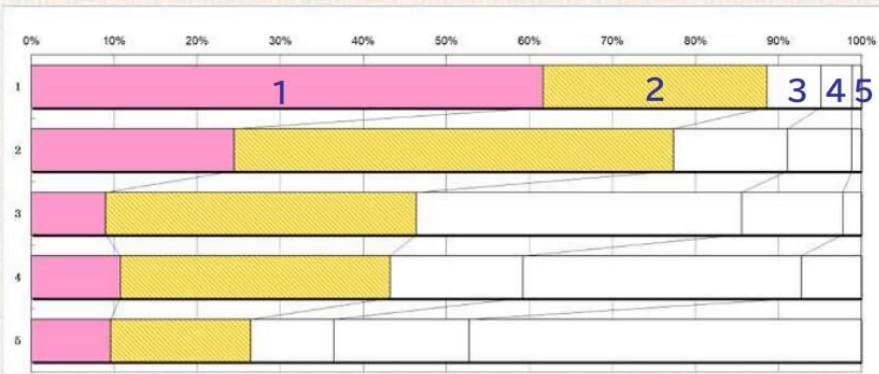
授業のはじめに、「その授業でどんな学習をするか」(ねらい)をつかんだ児童生徒ほど、授業の終わりに学んだことを振り返り、「自分がわかったこと・わからなかったこと」を理解する傾向がある。

中3

「自分がわかったこと・わからなかったこと」の理解

授業の「ねらい」をつかんだ

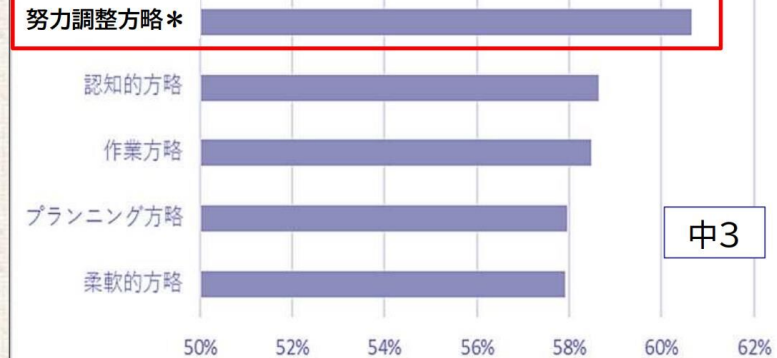
よくあった
↑
なかった



1:よくあった 2:ときどきあった 3:どちらともいえない
4:あまりなかった 5:ほとんどまたは全くなかった

(2) 重回帰分析の例①

○努力調整方略は全ての学年・教科で学力の伸びと相関が大きい

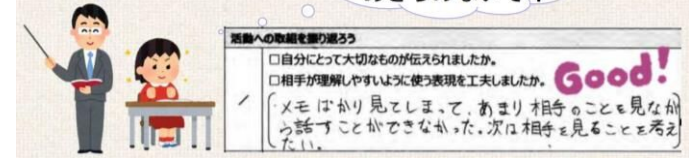


努力調整方略を伸ばすための取組例

できるようになってきたね。
次は何を頑張ろうかな。

振り返りの充実

苦手だけど
あきらめないぞ!



I 埼玉県学力・学習状況調査について

指導の工夫改善(県教育委員会での分析と活用)

(3) 重回帰分析の例②

児童生徒の「見直し時間」の状況と教科に関する調査項目について分析した結果

I **見直しを行う児童生徒は、正答率が高い。**



さらに児童生徒質問調査との関係について分析した結果



II ○**作業方略の数値**が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。
○**自己効力感の数値**が高い児童生徒ほど、見直しを行っている。

【作業方略】

学習方略の一つ。ノートに書く、声を出すといった、作業を中心に学習を進める活動

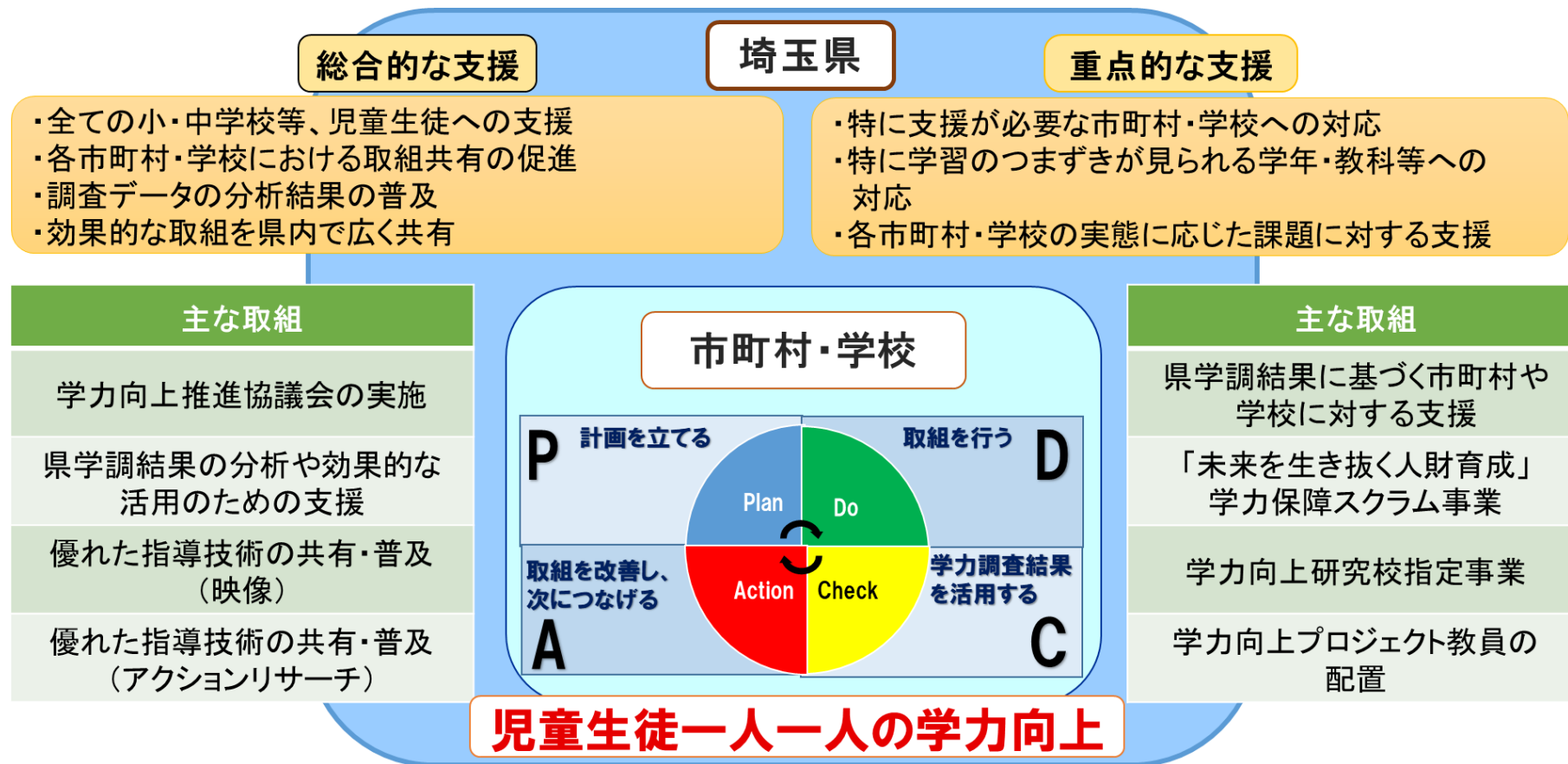
【自己効力感】

非認知能力の一つ。自分はそれが実行できるという期待や自信

見直しを習慣化させるために、作業方略や自己効力感を高める取組が重要

I 埼玉県学力・学習状況調査について

県教育委員会の学力向上施策

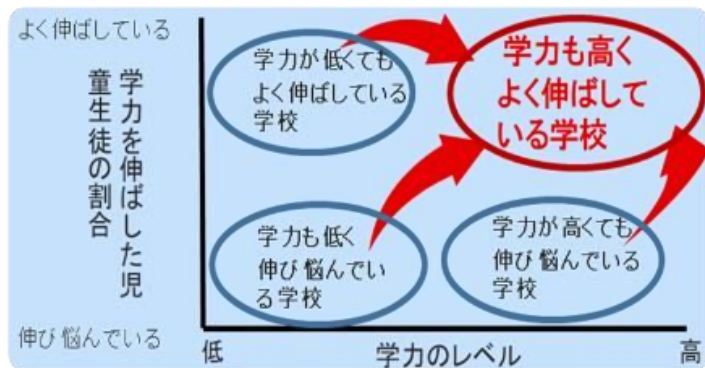


I 埼玉県学力・学習状況調査について

県教育委員会の学力向上施策(総合的な支援)

優れた指導技術の共有・普及

学力をよく伸ばしている学校や
学級、教科の把握が可能



前年度のクラス	「学力を伸ばした児童」の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	91.8%	75.1%

優れた指導技術の共有・普及



- 学力を伸ばしている教員を抽出
- 授業を撮影
- 解説を付加した動画を作成
- 県のホームページで動画を公開
- 校内研修や年次研修で活用

I 埼玉県学力・学習状況調査について

指導の工夫改善(各学校での分析と活用)

(1) 非認知能力・学習方略と学力

埼玉県学力・学習状況調査
学力分析データ(学カレベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別

2 年 1

本調査の「アクティブラーニングの実践」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0となっています。
数値が緑ほど、よい傾向にあります。

No	個人番号	学年	性別	クラス平均	学カレベル										学習方略										非認知能力													
					国語		算数		英語		理科		社会		総合		読書		学習計画		学習環境		学習意欲		学習習慣		学習態度		学習成果		学習意欲		学習習慣		学習態度		学習成果	
					得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位		
*****	2	1	1	女	埼玉 神子	5-C	13	-1	5-B	14	5-B	14	1	5-C	13	7-C	19	-0.9	-0.8	-1.2	-0.3	0.5	-0.3	0.3	-1.0	3.6	2.5	2.5	2.5	3.5	2.8	2.5	2.1					

埼玉県の分布

最上位	33	33	33
上位25%	26	26	29
中間層	23	22	24
下位25%	20	18	21
最下位	13	13	13

氏名	R5レベル			R4レベル			R3レベル			性別	自己効力
	国語	算数	英語	国語	算数	英語	国語	算数	英語		
青森 りんご	14	14	14	14	14	14	14	14	14	2	-0.02
秋田 健	19	19	19	19	19	19	19	19	19	1	0.00

学力のレベル・昨年度からの伸びを色で示している。
※県平均の伸びより伸びが大きい・小さい子がわかる。

非認知能力・学習方略の変化量を色で示している。
※クラスの平均からは全県や他のクラスと比べた傾向がわかり、個々の児童生徒に着目すると、昨年度から大きく上がっている・下がっている子がわかる。

クラス集団を基準とした5層分布を色で示している。
※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子がわかる。

クラス集団の県全体を基準とした5層分布を色で示している。
※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子がわかる。

I 埼玉県学力・学習状況調査について

指導の工夫改善(各学校での分析と活用)

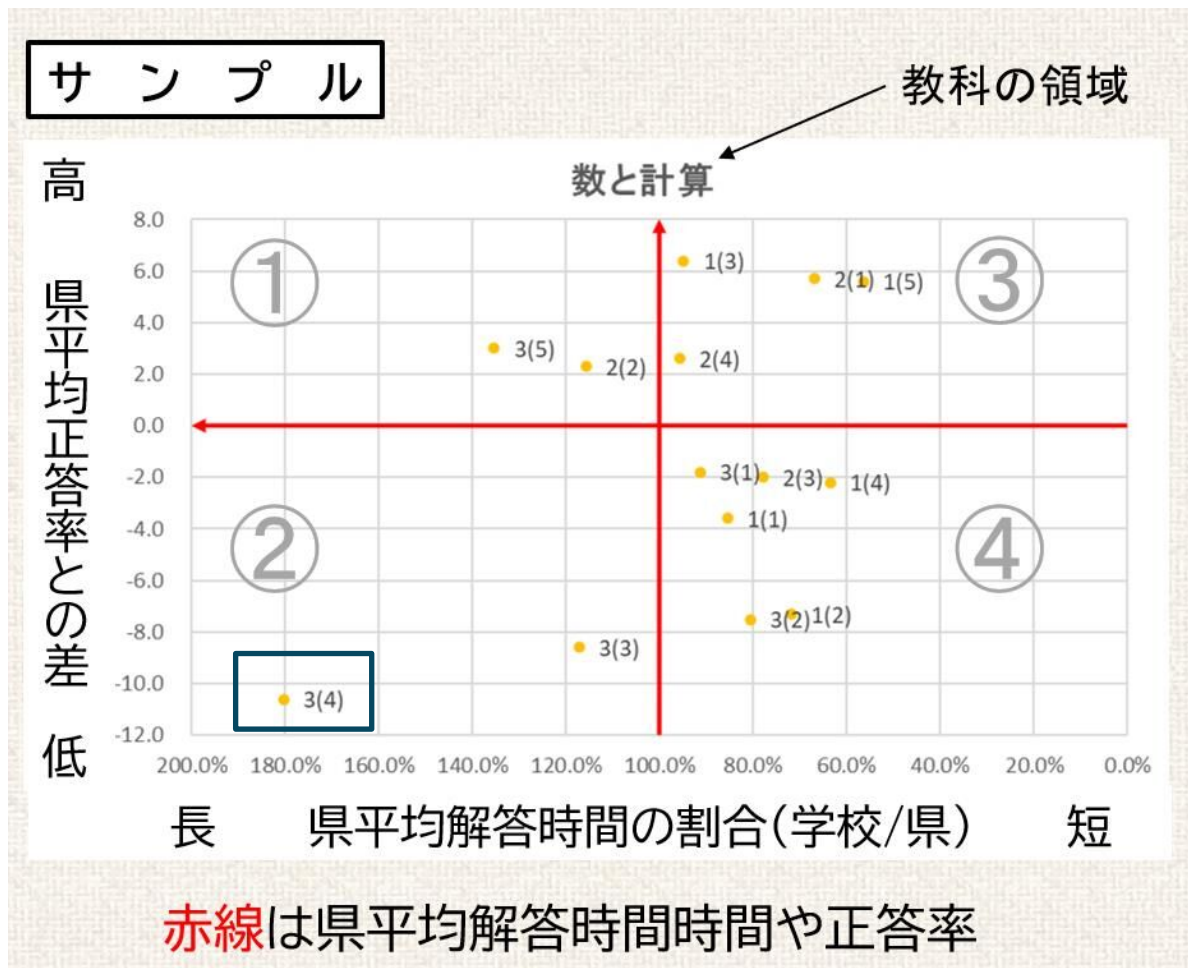
(2) 解答ログ



I 埼玉県学力・学習状況調査について

指導の工夫改善(各学校での分析と活用)

(2) 解答ログ



解答ログを活用した授業改善例

解答時間が長く、正答率が高い

- ① (授業改善例)
思考を整理するための授業改善

解答時間が長く、正答率が低い

- ② (授業改善例)
基礎・基本を徹底するための授業改善

解答時間が短く、正答率が高い

- ③ (授業改善例)
発展学習の導入等を含む授業改善

解答時間が短く、正答率が低い

- ④ (授業改善例)
粘り強さを実感させる授業改善

I 埼玉県学力・学習状況調査について

分析・研修の充実による学校のPDCAサイクルの促進

平成30年度～

市町村教育委員会主催の各種会議での県学調活用研修の実施

対 象 管理職、校内研修担当、市町村教育委員会指導主事など

内 容 **研修用のデータ**を読み取り、分析する視点の理解促進

令和7年度～

複数校一斉型ハイブリッド研修の実施

対 象 研修希望のある学校の教職員 等

内 容 オンラインで分析方法の全体説明を受けた後、**各学校の結果データ**を読み取り、学校ごとに分析を行い、発表を実施。



実施後のアンケート(集計2,421名)

- ・今までは学校の中で2、3人で分析をしていたことが、学校全体で一斉に分析する機会となり大変有意義な時間になった。
- ・分析の視点が明確になり、他の学校の分析結果を聞いて充実した研修になった。 など

II ICT教育に関する現場の取組事例

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書より抜粋(小学校)

川口市立芝西小学校の取組 ア ICTの積極的な活用

算数では、考えを共有したり図形領域で視覚的に支援したりとICTを積極的に活用した授業を実践している。また、他教科(理科等)において、紙のノートを使用せずGIGAスクール端末をノートとして学習を進めたり、習熟を図る際は児童に適用問題を選択させて取り組んだりしている。高学年においては、GIGAスクール端末で単元テストを実施する等、児童教師共にICT技能を高めながら学力を伸ばす取組を行っている。



〈1単元分のタブレットノート〉

蓮田市立蓮田中央小学校の取組 (1) ICTの活用場面における期待する効果と活用ポイントの明確化

ICTを活用するとどのような効果が期待できるかを考え、活用場面を7つに分類した。また、7つの場面それぞれにおいて活用のポイントを明確化し、意図的・計画的な授業を構成するようにした。また、教科書の二次元コードコンテンツ等も学年ごとに整理し、いつでも活用できるようにした。

具体的な方策 (ICTの活用場面)

- ・問題提示—問題を一瞬で配布できる。問題を拡大して見せることができる。
- ・自力解決時—ノート、ワークシートの代わりに使用できる。試行錯誤が可能である。
- ・学び合い時—一瞬で記述内容が転送できる。また、一覧表示が可能である。
- ・まとめ・振り返り—まとめ・振り返りの共有できる。振り返りの蓄積が可能である。
- ・学習内容の蓄積—タブレットに書いた内容が蓄積される。
- ・個人の状況の把握—個人の問題解決状況を把握できる。
- ・知識・技能の伝達—お手本の動きを確認したり、自分の動きを振り返ったりすることができる。

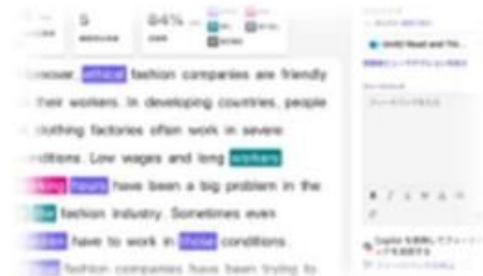
Ⅱ ICT教育に関する現場の取組事例

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書より抜粋(中学校)

朝霞市立朝霞第五中学校

ア コラボレーションツール（Microsoft Teams 課題機能を活用した音読練習の取組）

英語の「読む力」「聞く力」の向上を目的に、コラボレーションツールの課題機能を使った音読練習を実施した。生徒は自宅でタブレット端末（iPad）を用いて音読し、録音データを提出。AI機能により発音ミスや読解速度（WPM）が可視化され、自分の上達を数値で確認できるようにした。これにより、苦手意識をもつ生徒も繰り返し練習に取り組むようになり、発音・読解・リスニング力の向上につながった。ICTを活用した個別最適な学びの実践として効果が見られた。



【コラボレーションツールの課題機能の活用】

寄居町立男衾中学校

ウ 学習方略や非認知能力に関すること

英語科では、タブレット等のICT機器を用いて、子供たち一人一人の特性や学習進度にあわせて、効果的な指導を行っている。《個別》で学ぶ学習時間を各単元中に設定し、学習アプリを用いて、一人一人に最適な学習課題に取り組ませている。生徒は、難易度を自分に合わせて柔軟に変更していくので、苦手としているところ、さらに伸ばしていきたいところなど重点的に学習することができる。



御清聴ありがとうございました。

☀️ 未来を創る、こどもたち。
未来を育てる、わたしたち。

～ 未来への責任～

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン